

令和3年(2021年)3月12日

保護者のみなさま

豊能町立東ときわ台小学校  
校長 久保康子

## 学校評価報告書

### —アンケート集計の結果と今後の取り組みについて—

春寒の候、保護者のみなさまには益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。  
平素は、本校教育活動にご理解ご協力をいただき、ありがとうございます。

さて、学校教育活動改善等のため、昨年12月に、児童・保護者に対して、「児童の充実した学校生活」についてのアンケートを実施しました。その後、データを集計し分析考察を行うとともに、学校協議会委員の方々からもご意見をいただきました。

今年度は、コロナ禍中、6月開校、行事の縮小・中止、活動の制限等、我慢の1年となりました。中でも、概ね肯定的評価をいただいております。しかし、質問1「学校に行くのが楽しい」をはじめとして、昨年度よりも肯定評価が下がっている項目もあります。コロナ禍でイレギュラーな対応を求められたことも理由の一つと考えますが、改めて課題の見極めを行うとともに、“楽しいと思える学校づくり”にさらに力を入れていく所存です。また、昨年度までの研究のひとつである『のびのび』（異学年交流・基礎的な力の育成）の時間を取ることができませんでした。来年度は、コロナ終息でなくても実践できる方法も模索していきたいと考えています。設備・環境面については、ご意見を真摯に受け止め、委員会と協議しながら改善に努めていきます。

これからも、「一人ひとりを大切に、ともに学び・活動する喜びに満ちた学校」を学校目標とし、「誰もがわかる授業」・「認め合い支え合う集団」をめざして、知育・徳育・体育のバランスのとれた教育活動を、保護者・地域の方々や関係機関との連携を大切にしながら進めていきます。

今後ともご理解ご協力をどうぞよろしくお願いいたします。

以下に、改善の方向性について述べていきます。

特徴的な項目について、学校側の「自己評価」「改善の方向性」及び学校協議会委員の方からの意見を「関係者評価」としてまとめています。また、集計結果の比較グラフと自由記述の集約も添付していますのであわせてご覧ください。

互いに認め合い支え合い、人権を大切にする集団作り	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「先生は困ったときや悩んだ時に力になってくれる」「学校はいじめやこどもの悩みに対応している」、また、「学校に行くことが楽しい」「学校生活を楽しんでいる」の肯定的評価が下がっている。その理由や背景をつかみ、丁寧に対応していく必要がある。</li> <li>・挨拶に関しては、肯定的評価の割合が高い。が、「ごめんなさい」「ありがとう」という言葉も含め、自分から進んで言える児童は多くない。</li> <li>・「他の学年との交流はよいことだ」「他の学年との交流を通して学んでいる」の肯定的評価が下がったのは、コロナ禍で十分な取組みができていなかったことが理由ではないかと考える。今年度は、登校班、清掃、合同授業しか行えなかった。</li> <li>・昨年度と比較すると、肯定的評価が下がっている項目が増えた。</li> </ul>
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今回の結果については、約3ヵ月の休校後の学校再開に際しての不安、行事の中止が続く中での授業等、子どもたちが心身の安定が図るのが難しかったことを裏付けていると考える。来年度もコロナ終息の予測が立たない中、どのように対応していくかしっかり考えていく必要がある。</li> <li>・今年度も定期的なPDCA会議や生指連絡会等で、児童の小さな変化なども見逃さず対応するように努めてきた。今後も、児童の困り感や悩みにも目を配り、「チーム」で早期発見・未然防止に努めていきたい。また、普段から一人ひとりの児童への理解に努め、状況を教職員で共有して早めに手立てを打つようにしていく。</li> <li>・児童朝会での生活目標提示や児童玄関のさまざまな発信掲示を行っているが、「密」を避けながらできる方法をさらに模索し、ソーシャルスキルトレーニング等を実施していけるようにしていきたい。また、日頃からの学級での取り組みを通して、自信をつけさせていきたい。</li> <li>・各学年単学級である現状から、異学年交流は子どもたちにとって大切な活動である。コロナ禍でもできる取組みを考え、子どもたちが成果を感じられるような仕掛けや取組みを考えていきたい。</li> <li>・肯定的な言葉かけを意識し、一人ひとりのがんばりを学級集団に返していく。また、集団づくりのポイントや仕掛けについて研修を行い、共通理解の元、児童一人ひとりが安心できる集団作りをめざす。</li> </ul>
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・肯定評価のこの程度の低下は、コロナ禍ではやむを得ないと思う。生活様式が一変して、子どもたちも少なからずストレスを感じていることが結果として出ているのではないかと。コロナが落ち着いている時期に、学校行事や異学年交流を子どもが楽しめる活動が増えることを願う。</li> <li>・「思いやりのある行動」の項目で、保護者と児童の評価に約15ポイントの開きがある。毎年、保護者よりも児童の結果が低くなっていることから、児童の良いところを見かけたら、もっと褒めてやることも大切なのではないかと思う。この項目は、自己肯定感とも関連するので、先生方や我々地域住民も、いつも気にかけておきたい結果である。</li> </ul>

確かな学力のために、基礎基本の確実な定着を図る	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>全ての項目において肯定的な回答の割合が高かったものの、肯定率が昨年度よりも下がっているものもある。</li> <li>授業に対する受け止め方が保護者と児童とで差がある。6月スタートの影響があるのではないか。</li> <li>「家庭学習・宿題」、「家庭読書」の結果は、休校などにより家で過ごす時間が長くなったことが関係していると思われる。</li> <li>基礎的学力の定着・活用を図り、様々な活動を通して学ぶことの楽しさやよりよい学習集団作りを今後も追究し、大切にしていかなければならない。</li> </ul>
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>与えられた課題に取り組むだけでなく、目的意識をもって、主体的に家庭学習に取り組む姿勢を育てる必要がある。具体的に自学習などの方法について提案していきたい。</li> <li>コロナ禍でも「主体的・対話的で深い学び」を実践していけるよう、授業の工夫改善を図りたい。また、継続して、日ごろから子どもの実態をふまえた授業づくりに取り組んでいく。</li> <li>学級集団づくりと連動させながら、安心して学べる学習集団を形成していく。</li> </ul>
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>基礎的学力の定着を図るための、学習集団づくりの研究をさらに追究していただきたい。</li> </ul>
日常生活を通して、健康への関心と態度を育成する	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校行事に目標を持って取り組んでいる」という項目では、肯定的評価の割合が、前年度までと比較して減少している。運動会をはじめ、大きな行事が中止となったことが影響していると考えられる。</li> <li>「外遊びをしている」児童が減少し、保護者も「体を動かす機会が十分持てていない」と感じている。新型コロナ対策による活動制限の影響もあるようだが、クラス遊び以外で自主的に外に出る児童は多くない。</li> </ul>
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>昨年度までのマラソン大会に代わり、今年度から実施したペースランニング記録会は、個々の目標も立てやすく、取り組みやすくなった。次年度以降も継続した体力づくりを考えていきたい。</li> <li>活動の中止や制限に代わる新たな運動の取り組みとして、6年生による「東とき enjoy フェスタ」の開催や、4年生による運動場のドッジボールコート作成などの活動を行い、児童にも概ね好評であった。</li> <li>児童会健康委員会による「外遊びサポート」（遊具の貸出）を3学期に行った、次年度は年間通して行えるように計画していきたい。</li> <li>今後再び活動に制限が出てきた場合でも、子ども達が意欲的に取り組めるような、新たな行事や</li> </ul>

	学習活動を実現していきたい。
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>外で体を動かす機会が減っている中、「東とき enjoy フェスタ」はよい取り組みだったと思う。</li> <li>屋外での活動ができるような行事を考え、健康で活発な学校生活ができるよう計画を推進していただきたい。</li> </ul>
地域に学び、保護者や地域との連携につとめる（学校経営に関して）	
自己評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業づくりや集団づくりに関しては、微減ながらも、依然として高い評価を得ており、昨年度まで研究開発校として日々研鑽を重ね、今年度も継続してきたことが生きていると考える。</li> <li>設備面ではエアコン設置など、改善されてきているとはいえ、雨漏りなど施設の老朽化に対する改善を求める意見は、依然として多い。</li> <li>「地域とのつながりを大切にしている」の肯定的意見が減少している。今年度は様々な行事が中止になったことも影響していると考えられる。</li> <li>新型コロナ感染症対策に関する取り組みには、記述も含めて概ね肯定的な評価をいただいた。本校では休校中に何度も感染対策について話し合い、試行錯誤しながら6月より実行してきた。また保護者の方々に消毒の協力を依頼するなど、様々な対策に積極的に取り組んできた。その結果が高評価につながったと考えられる。</li> <li>学校だより以外のお知らせも、学校HPにて情報発信を行った。特に、休校中には、学習に活用できるように参考リンクを張ったり作品募集の情報を紹介したりした。</li> </ul>
改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>校舎の雨漏りに関しては、町教育委員会の協力を仰ぎながら、大規模な補修を行った。根本的には改善されていないが、定期的な点検を欠かさず行うことで、被害がこれ以上大きくならないように努めている。他の補修も合わせて、引き続き町に改善要望を出していく。</li> <li>新型コロナ感染症対策による活動制限に伴い、児童や保護者の行事に対する肯定的な意見が減少した。来年度以降も感染症対策が継続されることが考えられる。今年度中止となった行事に関しては、安全対策を十分総括したうえで、来年度からは実行できるようにしていきたいと考える。</li> <li>学校HPを最大限活用できるよう、速やかに情報をアップしていくように努めていきたい。</li> </ul>
関係者評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>「学校行事に目標をもって取り組んでいる」の項目の肯定評価が減っているのは、行事が中止になったからなのか、高学年の人数が少なくなっているからなのか、学年別で割合も見てみたいところである。</li> <li>学校だよりでは、全学年の情報が載せられており、学年ごとの特色がよく分かる。また、どんなコロナ対策をしているかなどの発信も続けていってほしい。保護者も、HPや学校だよりを含め、情報を得る努力も必要かと思う。</li> <li>小中一貫校の計画が決まったが、統合までの間も、児童の安全、衛生両面での設備の補修は継続して町に要求していただきたい。</li> </ul>